

# 矢馳 A 遺跡 (第 3 次) 発掘調査 調査説明資料

調査要綱	遺跡名	矢馳 A (やばせえー) 遺跡
	遺跡番号	1618
	所在地	鶴岡市大字矢馳字下矢馳
	調査委託者	国土交通省東北地方整備局 酒田河川国道事務所
	調査原因	日本海沿岸東北自動車道 (温海～鶴岡) 建設事業
	調査面積	13,000 m <sup>2</sup>
	現地調査 種別	平成 18 年 4 月 17 日～11 月 30 日 集落跡
	時代	古墳時代・奈良・平安時代
	遺構	竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝跡 井戸跡、畝状遺構、土坑、ピット
	遺物	須恵器、土師器、中世陶器、古銭、 木製品等
調査担当者	調査第三課長	渋谷孝雄
	専門調査研究員	黒坂雅人 (調査主任)
	主任調査研究員	伊藤成賢
	調査研究員	三浦勝美
	調査員	粕谷孝
	調査員	渋谷純子
	調査員	山内七恵

## 1 調査の概要

矢馳 A 遺跡は、庄内平野の南西部、鶴岡市街地の西方に開けた水田地帯、大山川と湯尻川にはさまれた沖積地であって、標高は 14.5m を測り、遺跡範囲 60,000 m<sup>2</sup> におよぶ広大な遺跡です。本遺跡は微高地 (埋没自然堤防) や背後湿地に立地しており、遺跡付近の河川の氾濫が多く見られた場所です。

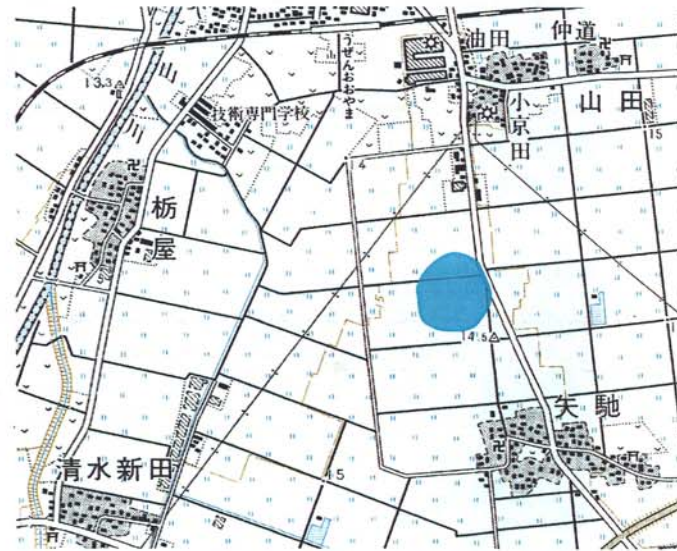
第 1 次調査は、昭和 62 (1987) 年に鶴岡西部地区の県営圃場整備事業にともなう緊急発掘調査として山形県教育委員会が実施し、古墳時代後期の大規模な集落跡の存在が確認されました。

今回の調査は、それらの調査を受け、日本海沿岸東北自動車道の建設に先立って進められています。事業地区は第 1 次調査区の南側に隣接しています。

第 2 次調査は、平成 17 年度に事業地区周囲の農業用の排水路および用水管の切り直し部分について実施されました。重機のバケット幅 (約 180cm) の線掘りとなりましたが、推定される遺跡範囲の中央部分を東西方向に横断する形となったため、複数の河川跡や古墳時代の遺物包含層の存在など広範囲に遺跡の状況を把握することができました。

今年度は第 3 次調査が行われており、事業地区本体部分について、上記日程で進めているところです。

2006 年 11 月 19 日  
財団法人山形県埋蔵文化財センター



矢馳 A 遺跡位置図  
(国土地理院発行  
2万5千分の1地形図「鶴岡」を使用)

## 2 検出した遺構

矢馳 A 遺跡第 3 次調査で検出した遺構は、全般的には古墳時代～中世にかけての遺構が確認できました。

A 区では竪穴住居跡 (ST981)、畝跡と思われる南北方向に走る溝跡、土坑などが検出されました。出土した土器から、奈良時代のもと考えられます。また東西方向の河川跡 (SG833) が検出され、須恵器や木製品などが出土しています。河川跡は市道を挟んで B 区につながっています。

B 区では、住居跡 (ST1171) や畝状遺構が検出されました。また、ほぼ南北方向に走る 2 条の河川跡 (SG772・SG791) も検出され、遺物が出土しています。

C 区では、東部に柱穴跡・井戸跡等が検出されました。柱穴跡の一部は掘立柱建物を構成すると思われまます。また井戸跡からは、井戸組みの木枠も出土しています。またこれらの遺構を囲むように、溝跡も検出されました。この溝跡は、出土遺物などから中世のものと推測されます。従って、先にふれた柱跡・井戸跡の中には、中世の遺構が含まれると考えられます。C 区中央・西部では多くの溝跡や河川跡 (SG160・SG1045・SG1048) 等多くの溝跡が検出され、遺物が多く出土しています。出土遺物から、古墳時代のものと考えられます。

D 区では、近世から近代にかけての堰跡が検出されました。護岸用の板組みも合わせて出土しています。また、C 区からつながる河川跡 (SG160・SG1048) も検出されました。



調査区全景

## 3 出土した遺物

矢馳 A 遺跡第 3 次調査では古墳～中世の遺物が出土しました。

古墳時代では、C 区中央部の遺物包含層から、高坏をはじめとする土師器が多数出土しました。また C 区西部の溝跡・河川跡から、坏・鉢・甕などの土師器が出土しています。

奈良・平安時代では、A 区河川跡より、小型の壺や、墨書のある坏など、多くの須恵器が出土しました。A 区住居跡からは、土師器、紡錘車、裏底にへら書きのある須恵器などが出土しました。また、同じへら書きのある須恵器が、A 区遺物包含層からも出土しています。

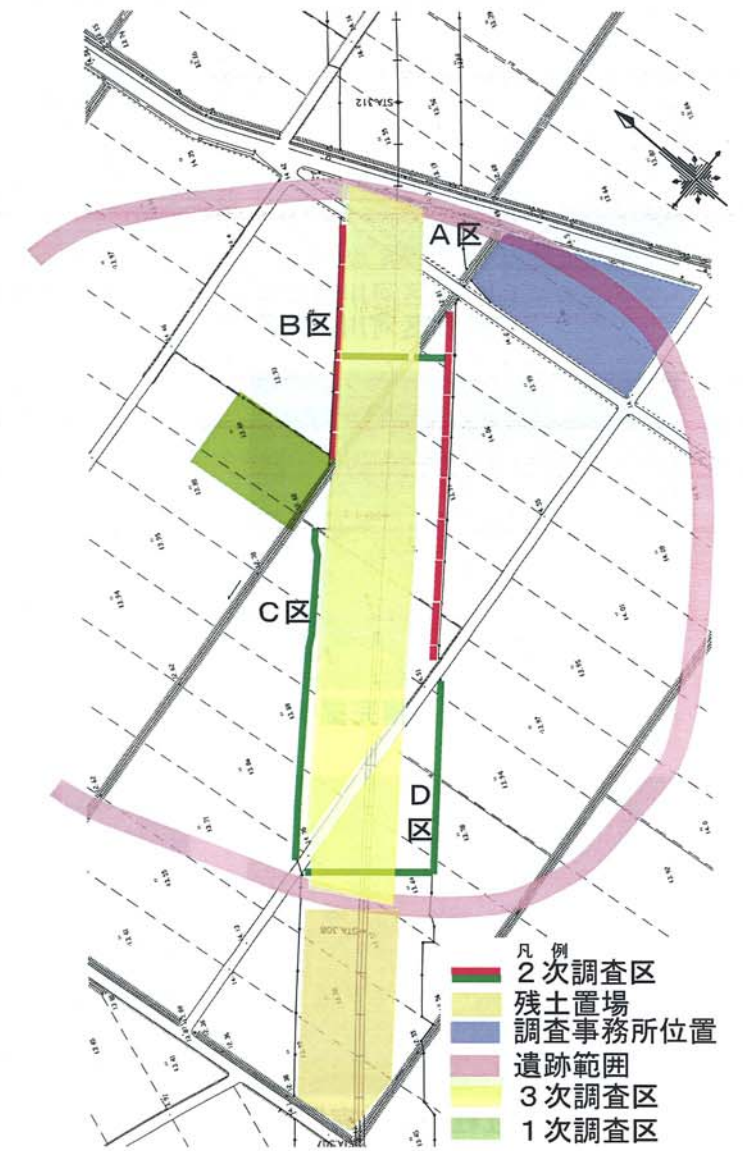
中世の遺物は、C 区東部の遺構から、唐津焼をはじめとする陶磁器などが出土しています。

また、平安時代の木製品も多く出土しており、B 区河川跡より木皿 2 枚、C 区井戸跡より木枠や曲物、祭祀で使われたと考えられる斎串などが出土しています。

その他、古墳時代の土製の玉、石製の管玉、寛永通宝や永樂通宝といった中近世の古銭も出土しています。



古銭、管玉、土玉



平成 18 年度矢馳 A 遺跡調査範囲図  
(S = 1 : 4,000)

## 4 まとめ

矢馳 A 遺跡第 3 次調査の成果として、次の 3 点があげられます。

C 区河川跡 (SG160・SG1048・SG1045)・C 区中央部溝跡群は、出土遺物から古墳時代の所産であることが確認できました。これらの遺構からは、土師器をはじめとする多くの土製品が出土しており、当時の生活がうかがえる貴重な資料と思われる。

A 区の河川跡 (SG833)・住居跡 (ST981) は、出土遺物から奈良・平安時代の遺構であることが確認できました。特に、住居跡と遺物包含層から出土した同じ刻印のある須恵器は、これらの遺構の性格を物語る史料として貴重なものです。

その他の畝跡や河川跡、柱跡、井戸跡などの多くの遺構が確認できたことや、遺物包含層などから多くの出土遺物を得ることができたことは、矢馳 A 遺跡の性格のみならず古墳～平安時代の生活や集落跡のようすを探る上で貴重な発見と思われる。





(上) A区河川跡断面  
(下) B区河川跡断面



A区竪穴住居跡出土状況



B区竪穴住居跡完掘状況



ヘラ書きのある須恵器坏出土状況



裏面に墨書のある坏



須恵器蓋出土状況



B区畝状遺構完掘状況



C区館跡周辺遺構配置図



火だすきのある須恵器坏出土状況



木皿出土状況



耳付土師器甕出土状況



C区掘立柱建物跡完掘状況



調査区全景俯瞰(合成、上が北)



(左) 齋串出土状況  
(右) 河川跡から出土した齋串



井戸跡の横組み木柁出土状況



井戸跡の縦組み木柁出土状況



C区西端周辺遺構配置図



須恵器壺出土状況



須恵器壺頸部出土状況



壺出土状況



C区中央包含層遺物出土状況



D区堰跡の木組み出土状況



C区西端土坑出土状況



土師器高坏出土状況



土師器坏出土状況



土師器甕出土状況